詞林三知抄 二巻

へ 5
2201

詞林三知抄

乾

へ5
2204
~5
2204
へ利生
2204
1-2

門刻
2:204

明治四年四月二十七日
藤野漢氏遺愛之記

詞林二初抄上

神祇部

千磐屋理　ちはやあら　茅葉屋理　ちはや色

ちはやあら神代もきかぬ立田川　紅葉ながれて水くくるとは

何人周字文勾玄人神代といふん抗詞や口傳

幣　ぬさ　御祓、乃事や

千人面　ゆふさすき　ゆふの事ゆふ屋

我社ゆふ社のゆふさすきてもゆふの道ゆふ人ぬ

柏ゆ　ゆふて　逢ゆふ事ゆふ別の

藤野漢氏遺愛之記

島居　とりゐ

古語に鳥居院の宣旨とあるも　紀義先書口傳

照燎　ほかくらのたくさん

神宿　かくしひくろ　名しきこゑのもの

祝子　そふりこ　神人の事なり

八乙女　やとめ　同舞姫の事や

姚玉姫　あやたまひめ　あやたまひめの事

法義呂末　ほうぎろまつ　同ほうぎの事や

鍬鼻　ひりはけ　神に生鍬を供ずる

禊　みそぎ　神人を沐浴なる　もろへす祓事し

なこし　穢を除去する

みそしり川　神の宮に流る川し

みそすそ河　伊勢の宮川し

禊式法さしとそそ神風やは宮瀧川のそそ流ハ瀧祭

瀧　瀧　いと井　水わひ精進する

橫宮　さこのみや　伊勢の内宮の事し

月讀宮　月さこのみや　同外宮の事や

竹の宮子　たけのみやこ
石清水神　いしみづ神
紙神　たかれかみ
世の中にたかれかみのまとゐんにたとへたるこのかれやはする
高丹木　わとりさて
白丹木　同色いろ
賽　かへりもの
願　ねがひ

たまの緒さいはひなるいたりの寺の縁のまりへねがひ

屋敷の神の事や　賀茂の宮の事し
神代の事　傳
神と念ずれとや
神佛なりし事や

汗祭　かやし祭　水神の事なり
汗祭はやうとかと云ふかいせうと七月ひのん
天津神　わまつかみ　天神七代の事や
地津神　くにつかみ　地神五代の事やし
安産　わたりと　佛神伝作の義し
陽龍　みたりさ　むりさの事たし
ひるまと云ふ　ひるまの天しと代ちいとひ初てさ
又ひさしといとん沈相なりと云ふ傳
月宮　月のみやと　月宮殿の事や

何之神の字よりさだまりたるなり

龍宮　龍宮の事なり

神酒　ほうらいの酒

木綿付鳥　神の霊なるよしを

木綿四手　七五三の神事

祭　祝詞の事

蓑　秋の祭

四季より出る字かりなり

神道　神の教へ出る道

山姫　山よりの神なり

神風　神の威勢なり

運歩　神まうでの事

一宮神　ひとつの神

八神　八面神わかれ神なる故に姫宮の名八神社

かしこ　かしこ行也　かしこ神の和歌といふなり

春部

姫保姫　さかひめ　悪を除く神也

色ハそさのうつくしき神祇よりす

鵜舟　わ遣そうつく　正月廿六日うて

つかまつる港地てなし同字たこ方去へ

梅綿　かさうのうつく　正月七日六角うて

一冠と綿うてけうつ事

白馬　わをむき　同七月の馬事品傳

清田　ひへうへ　宮の字ハ源く不通

長岡　のとろ　鞍ハこ方去へ

真牙張　とのめうこ　月の字ハ不通

姫萱　ひめりや　かと元出ハ若よりあり

畑打　はたうち　りこたるまうけし

前木陰　もこ木の陰　青松行のけ

天狗毛　てんぐもの毛　

[illegible]　[illegible]ら鬼うち木たつ

裁　うち字　木を植ら方ハ書し

滅長　とうこ長　植そうたるうし

何こ同字わ[illegible]　[illegible]へこ方去へ

種　う樹　茅とうわ[illegible]

花路　それのすゑ　花ぢをなりつゝ

古歌ども　春園更育濃花路と紀貫

路毋　すゑ山ぢ　毋ゝ路と立つ事

すゑ山ぢとゝ也ゝ所まに路も深草の上野のすゑもそらに成ぬ

風緩　色ゆるし　長閑なる枝かな

鶯　うゝ鳴く　高砂なる心和日たゝ

暮郭

白雨　ゆふだち　夕立とも書

鳴神　かみなり　いかづちの事

飛萱　ひわ草　かゝ元出る若草

畑打　はたうち　はたうちの事

萠木陰　もえ木の陰　りゝなる木かげ

大賀蓮　おほがの蓮　有松行のけな

[illegible]　[illegible]　[illegible]

蟄　うゝ穴　蟄を穴ゝ書

濁酒　[illegible]　穴を穴ゝ書

何と同字なりたゝ[illegible]ゝ二句去へ

種　う蒔かる　蒔とうゝかるに事

花鎮　はなのまつり　花によせて付る也

古ハ春闌更衣護花鎮と兆まり

鎮母　まつりこ　母は鎮と云事也

すゝ舟とも云所にて終る深草の上野のさくらを付る

風穴　かぜあな　丑寅なる穴なり

簾房　うつく　夏閑なること同和智光也

夏部

白雨　ゆふたち　夕立とも書也

鳴神　なるかみ　いかづちの事也

雷電たすけ神祇によるべし

照射　ともし　火をともして鹿を狩也

漣漪　さゞなみ　夏かくらの前なり

扇帰　せんぼなく　扇子の事なり

蚊遣火　かやりび　小屋のかやり火

下くゆるも

秋部

盆具　みちかへし　盂蘭盆の事なり

是も盆の字は三月ニ出へし

玉鄰書　たまゆら　寄に祈こ祈こ

むゆらの家も撫もてまもりたまへ　人麿の歌のわさ風

秋氣　秋のいと　七夕の事　傳

牽牛　ひこぼし　男七夕の事こ

織女　たなばた　女七夕の事なるを

穂打　きぬうち　衣をうつなり

毛八月　毛八月なる麻のさ衣時よりつと漬り

芒明　とよのあかり　秋の月十五夜のこと

芒穂　すすき穂　支秋の事こ十月こ

不知秋　いさよ秋　十六夜の事なり

冷　ひえ　秋の風のこと

家中　やなか　八月十五夜を秋の

りあうとあうこと秋の家中ととうり

其柏渡鷹　こうれい渡たり　秋の末雁の渡るのこ

若かく　まこと山のかりの意なり其柏は渡る雁をいふ

小取鷹　和樓書　ことりの渡り　七月七日大内にて

夕鶴の死と冠の事　七月廿五日巣と離

鷹山別　鷹の山別れ

父母ましまし別事し

秋雪飯　小たくつを　秋流くたを

鳴鹿　そをかく　かりの人鳴のなく

まさしてふかの風新しふかす

高岡姫　さ月さ晴　岩もそさの苔の花

娘秋を飯しふし

冬部

雪　ふれ雪　ふりしふる

濱島　わくやとり　色新しる小ると

捕て生船しを　とれくさて好まへ乱れし

玄雪　くゆさゆさ　仙境しふかなる

炉雪　わさき雪　同れ年内ゆる

ふる仙人のくふしさ

除雨　やまくれ　深くくふれる

氷柱　ひのたし　大間して氷と物を

て年中の冬年霜年とくく極氷の厚

きしへ世間ゆくかなるとこ

雜部

神言　かしこ

和下　なごやうちまる　わかこいかなる神こ

わが命教ずこ屋うつよめるとそもとくあるこ

低徴　かしこ　猶ひまくるる也

胸動　むねどろく　うろたれ心百て去

欲言号和　こゝのまくらい　夫婦和合の事こ

神の代ものこのまくらいせ　猶ものこしあり

軍　ひらハ　まれなるこ

ひらハよとつ人わくハとこあるこ

恥通　そらかこ欲

瞋　ひつまこ

思禊（重の字とゝ）　おもひ猶ふこ

顔出　おこ出ふ

意衣神こ意ものこ

思徒　なくハのこ

振隠　しこたへ

乞當人　いそそよ人

そもそハそもとふこ

たゝひよこの欲こ

稱法なる事こ

思ひくる猶ふこ

いつもこ思ふる事こ

中の清きたる神こ

いつもこ命こる

いそこハ思出こる

そもそもそもそもとふこ意ものハそもとこ

記念　かくと見て　形見と書かるる

化粧　おなかけ　面影も

いかなる人にか可去

感女　たまぬれ　けいせいの事なり

遊女　うかれめ　同

専女　遊女　あそびめ　よる女の事や

等閑　なげさらむ　とうしかんのうやや

夢情　あだのなさけ　そらなさけのうそ

後朝　きぬぎぬ　せきぬぎ

若やさて袖とも今ぞ枕もとそなる夢のさむるかな

妹背　いりせ　夫婦のうそ

流て行せの瀬中に流るる吉野の川のうや世中

逸遊　たまさかに　まれの事

けしのり　ゆきしのり　ゆきうる山乃ゆきくれ清り

便　よすが　たよりの事

氣息　ためいき　形容の書

地の字ちさなかの事と人ものこと云

結息　おもさ　かり郷の事

[illegible]

鹿　[illegible]

[illegible]

倩時

[illegible]

[illegible]

白地

[illegible]

[illegible]陸奥のくにの細布也とあり[illegible]

くにの郡の布ハせうこさ傳

麁布

肩根痒

肩乃ゆきまと肩ばりうゝやうんとくる

湯

[illegible]

[illegible]

東間　豈時たまし

添湯

生將　すさむる
和離　よかまき
ちさろしいまれよかまき
離く　かまくく
鎮魔中振　ひまくの
しくしよしまくの
私案祝屏　かひさくみる
娜姿　なよひする
長子　うかいと

悲捨る心こゝろ
和とへてこゝろ

人の中ゝ見くゝ
神をこゝて拍こゝ
恒間見た書
うしくしこゝる
十二三ゝゝの事

緣子　みとりこの事
今朔　わふ時の事なる
かてこゝて逢ひこゝ水りこゝと侍りのと
弧引　うやひく　ちくこゝの事なる
蹂　うとゝ海を　とゝかんの事
後嫌　しゝ海ゝこゝ　ゝゝなこゝ云
嬋嬋　なゝ海ゝく　うしくしこゝ祈
弦志　なゝこゝ海　なゝ海ゝ心こゝ
慈　わちこゝ　ゝゝ端ゝゝ事

臨薫 こに臨
私語 こに密語
佩人
帳覆
[illegible]
[illegible]
[illegible]
霧
[illegible]

たゝ物の事
南面の書
たゝかゝぬ人
そゝ物の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]
中人の事

臨好
つきもの
強面
神宮
実朱
濃淡
鬟
思初
振分髪

つきりこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なりひら人の事
雑面とも書なり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]振かたもとゝのゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
勇起人　[illegible]
不分　[illegible]
清　不分櫂水風波面とあるも
寂迫　[illegible]
[illegible]
心深　[illegible]

[illegible]
三重節　[illegible]
[illegible]
精心　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
湯湯　[illegible]
[illegible]
[illegible]

掬
救
通和
泳
遠視
弱情
鷹嫁弦

少生山　ひさかたの山　たゆとせんの事
久々といふ八百といふ　千枕　羽ぶり
道行觸　みちゆきふる　ゆくてよ　ゆくてる
宇宙　たかそら　大虛　書
朝未　わさもとさ　わさのそやくし
朝和　わさなさ　わさ　辭
夕和　ゆふかなさ　たゆ
風意　世とさむ　風のわる〳〵事
風ふきすさもも　風ふきすさもも　以八百　こえる事

雨乾　わたしたる　ふるとすぐしてそらへいやしくなる事

弱電　こゝもとさわと　雷はこゝもとなる事

長潰　てすさまじ　そわそわしくなる事

長横　てがしらと　よりふる事や

晨明　わるもわけ　夜明しも書し

惜秋　わるき秋　月かも花もなし

わるき秋の月と花とをなぐさむ人のなきやう

見出　見たる　まくらの事

雲もたゝやせかくまの花と法り

夕見　ゆふべ　雲なくてあると

日没　いつもわし　入会しも

水弓　ひゆ　流るゝあまりやう

神ひらてもひとひ　水とまり

年宿　ひとさして　上久先年

生命　命のかぎり　秋林さびて　常あるもとゝ　陰とゝ

ほこ秋とゝ　おさき秋の事

[illegible]　[illegible]

居とまりたる我しのゆえよりて
うゝ夜や月のまちくらす松うえを尾上の遠そやとりわけ

隨　さひし　風雨まぬ時こそ遠

若　すこゝろ　心すこゝろをいつ

古今　松月吉雨時鳴ゝ絶り

諫　いさむる　せうのうの事

雪　いさむ　あけさ心し

孫極意　やうけ心　武士のいつ事

政　まつりこと　世中のとゝのひこと

芝傳　まゝなり　あるまだ事

脆　もろし　ふるかこと

紀無も紀業無も源しも云

胃途　かてて　居ぬ事うつ

注題　ゆきかゝる　行後の不題

章　うるかる　いつめてと云

こゝ流きそこいそのむろの岸うつる寄せ波の今

餘波　なごり　名殘りの書

下益雄　海まつり　男の業と四方の花云

義宿　おきなさひ　顔の色黄色なる

義の男の数名なると

泉郎　かはさのわたり　潜夫論書

小織帯　さをり帯　かそさ帯の事

さをり帯三重と成まてあるを云

懐（イ）間　ふところ　思ひさせぬ

閼　めたる　弊なくすた

玉鉾　たまかこ　道といへん枕詞

神代の事なるへし

仰向　あをむけさまなる

天の原ふりさけみれは　あまつそらいと

漂行　あてもなくゆく　ぬなはひゆくなり

小渭　ちいさいふ　あくそくちくそ

不意　ゆくすえなく　そくそくすると云

源氏よりさきひのみ　源氏よりゆくすえなくあくなるとこの思のみと云

依俳　それはあるなり　みれはかなしみ

彷彿　それはあるなり　風にはたなつかれ

髣髴　うちひまきて　わきまきの事

海潮　毎ゆゝ〻とうちむきてしてしらあり
大帝　ゆゝまてる神と
海待　かくうつ　山島より海
羅漢星　稀ゝひるる　物の陰りてうるも
　　かりてうれり　明星ちかきさ出る
　大星とかゝれ時ともの星とハあの星と云
阿羅漢　たそうまし　言ふてさ事と
八十氏人　やそうちち人　四家ちハ十より分こ
仙人　仙人　ちうすれこ

高揚　ちうちやなさ　糸柳の事と
水柳　河やなさ　河字より不埋
病氣　つてもし　長山の虫のさ
　　氣のわゝ〻ゝ〻ゝ事と
聽多　ゆゝ多　こゝ業の事と
　　淮ゆゝ色と萩多紀の枝とる
　　ゝ　ゝてき　ゝ事と
　　ゝてゝきの落ゝ
侵有鳴　ゝちゝふき　鳴ちの時と

朝霧　わさりの井　出んとする社
船りよわとあらの色も出んとする社こと
雨霧　わかりよる　雨ゆんとすること
雪霧　雪りの井　たまりのこと
雪とこ井同も所ゆんとこもる
朝寝　わさのすれ　物ゆりの社
寓もめのてなるかこと
旅　わりまへく　いさこいふ事
懸蓮　ちりもへて　蓮の表ちへて

懸　わされ　かりのる社なる
聡　わされ　わくれしるこ
知　わさ　いるこ
鶏衣　うけの社　鶏衣やけまてる社
雲漫　くはなし　月毋人毋云
怪池　さもわいわ　折まをるなこ

同字なりた三句可去萩原宗朝所寄
さもわくわさ言物言も雲の上の数の数紀白
女曹　先さう　いやしこ五の事

かけむとこそ云もの、やーさき世之事よ
これかさの秘言かくし殊更稿めきしわさとこれ真にとれ給
蔵龜　そればさと　袖にいろくかこ
衣織　をなかくこ　同このし
蔵の字よこらいもと衣の字よ衣嫡
船尾鏡　ふねのかゞみ　山鳥よよろこ
初尾てくまてく出さ尾之
真清鏡　ますみのかゞみ　いかなるをもすみうつすかゞみ
山の端よ出すとの清けらうと云ゆふ月の光か影なり

肴膳　わかなし　りをての事之
碍　さわり　さわりのこと
妨　さまたけ　同じ事之
擬様　わさとらしか　まろやかしわさとさく
秘言とあてなる宝ねいもろ解きた世よ初坂の実へゆかうし
朝　てれはたりあり　不審たる事之
連く　つらなく　打続くさかぬ事之
部　はなひさろ　かならめさうるところ
ともかあさへそひかひさらと云ふ白物の短尺

いそかへし古かりし霊もひたるひねとさき

海嘯　なりかく　よるまつなくくらき道

鵜羽藍　りすの葉くさ　此島ハ名の関さよ

すみてさかやあかし又かすそともいふところ往用

せとゝ声人もあり月流あしねたとこそへハ霞の桜よ

やのちゝ母わ条し仰待すへし

行次　ゆくて　わらく流ぬてよ上き

船峯　かなここそ峰　今こそ峰たいけ

山形恩　ちゝらつきて　篝かくさよ山もえんてちご

蒼かく並み流にそて立るかの羽音に鶴とわかせ河ののみ妙

鳥棠童　とりまくとりさき　鷹野の小鳥みそく

と春の枝よたれゆく絹ふるの祥こ

鳥叫　とりもさけひ　それなる鶴とふるき

霜羽紡 イ着羽　それゆく　鶴うけくるをと

囲　おくるま。　鶴を絹をるこ

鳥の字よ霜二万ちる去へし

様前男　まくさかるお　草かりの事こ

暁田守　とり稼りの　田をまもるこ

早稲田　つさ田　ちやさいねのすこ

幻　まかす海　夏の花ぬ祈之

人ハ神通の花盛事なり一百のうちよりへ

この世ハまぼろしなれども　なにかてもあるべきことなれども

色ハ神通の心なるを

現　うつゝ清く　稱ス事なるへ

分く　ゆめなく　すこしの事

死もちうすゆめとなり

石橋　わさこまさ　とすなく　ぬるこ

囲　かこふ　わつこかこふ

隠　かくろふ　雲よかくろふ月こゝ

同遠衣　もとおとの衣　すさまじきなる衣

人ハ遠き神なれども祈り一百よりへ

寺　あもとる　屋の字ハ不絶

鷲神　うらひと神　つさわ宮なる衣之

くふるに鷲神を拝果んもとうの源なり

ひいとハ遠よりもと蛭安の事之口伝

象三　ようさう門　大木と成て小さき梢
と成て成月よ三く山林とかくむし
ようさう三ゝ山の船木とも木の切けてわたす船木と
是ハ不意意の奇ことけしく品ゝ
物村食　こ海のむしくもむ　まむしくふくひるを
麻疫衣　わさのさ衣　布のそくせさ麻
麻のさ衣ようつとくるを
抑　かさし　死ぬく時勢ひるを
槌　ささ物　水のるゝ

抑　さてゆりと森の陰ゆ角すす門友とせさたる麻のさくさ
人へゆとせくさすと
槌　せて　さくゝ　ま世先泳と
言葉　言れさくゝとしも波のさくゝとしもいふと
東花書に品
幸　すゝ泳　物くしの外えを
ようさんらくさくる先一百ようくへ
浮瓢長泳　ひ多かくら　わさまくゝせかの命と
幸　かくさ世　さんらくの事と

かくさめとも所にもあり

紅葉　たつたがわ　水葉と同事歟

一のやとさわさきとたつたがわ

柳　一　そやとも　外面を書し

懸　うまてくさ　つひさ事し

宿のうまてくさと詠り

恨　うるさし　やなる祈なる

ひとしわたとさとうたけて軒しうたとうたしうたるうし

山奇兵やうはわしとのあやまりとやうし

高世　うき世　浮世とも書し

尋常　よのつね　ひとの稀なること

古語より尋常一稀忘前作と紀り

今将　いまはけく　海まさとりあり

愚　やうく　やからるぬ事し

ふもうたくこわり世道のふかなを

夜叉　やうしゃ　ようく夜叉し

人の賤うなとてとる夜のうたとし

蘭　うらさ　海　書そうさるよし

秋の野にたれをさそふ花すすき
て来しうの花に袖をしぼる夜し

宗雅　こゝろあり　世を厭ひ書し

天暁　わすれ川　男女の二道し

天子の仙車に宣旨よりあまてせりふ
殿下端　ひとのさかりハ　かゝるうけしる

源氏よりひとのさかりハ花ひらけしる
秋物哀　ふるすゝ哀し　秋すゝ哀し

偈　いさゝ　人をさそふなり

物
鉢　さそふ　流れ花　世
宜　ほゝ　世の外ゝと流り
　　ひへ　ゝゝとゝ

勝　ひへ山風と嵐ふん　すゝれる
　　空なる

相　わるゝとゝ　ゝゝと流り
　　ぬる　もしまゝる

集　白の袴ゝゝて文字申ゝ
　　ゝゝく　人毎ゝ

ひさしき恋のすさびと詠り

臣　あて所　にはさき事かわて

所人めたこうろ年とも詠り

消且　きえなそ　きえなそむかし

人なとよりて消るこさたえり清雅と事し

小雪　とるまもなし　山岩ゝ雪ふる木し

小白雪　とるまもさ　賤ひし袖ひろ麻のすし

ゝふゝの賤のそるまもなくとうり

鬘　あてゝゝ　たとゝろ所し

道　とゝろよ　ゝ紙ゝとし

檀木　うれかゝ事さ　杉木ゝの事し

玉乳女　なてゝちめ　母のそたゝちも

ゝ紙ゝ云八父の事ゝ父母とゝ父母とゝ

父郎嬢　かゝ所　ゝ紙父母のそし

ゝゝ所のやゝ知ゝたゝ　ゝかゝ所ゝ所ゝ所の紀と所

友達　ゝもたち　人の友のそし

紙鳶　ゝうすゝ　ゝやゝ所ゝ

かゝゝゝ雪ゝ紙ゝ　ゝゝゝに古巣と巣のゝ

歌

わさむく　毎月うつる雲

行月のひさかたやそら静のひとあるひとの行

いにしへもいまもかはらぬ神し

紀ノ鮮　さやけさ　雲ときこゆる西し

秋来ぬと風ふきぬるもとし

寛　ゆとひう　ゆるさすあるそ

嫁　ひさのうつる　かてさ姿の神

徳　おかうつる　人の鮮なる神し

久八寓の言もたはふるそと承り

切

小寝

さみしく　沈むと云し

さわるる　そなはるる事し

汀上の孫ちうあ畳あやくてこそ人よ知れ

動相　風ふせし　うもれかと云し

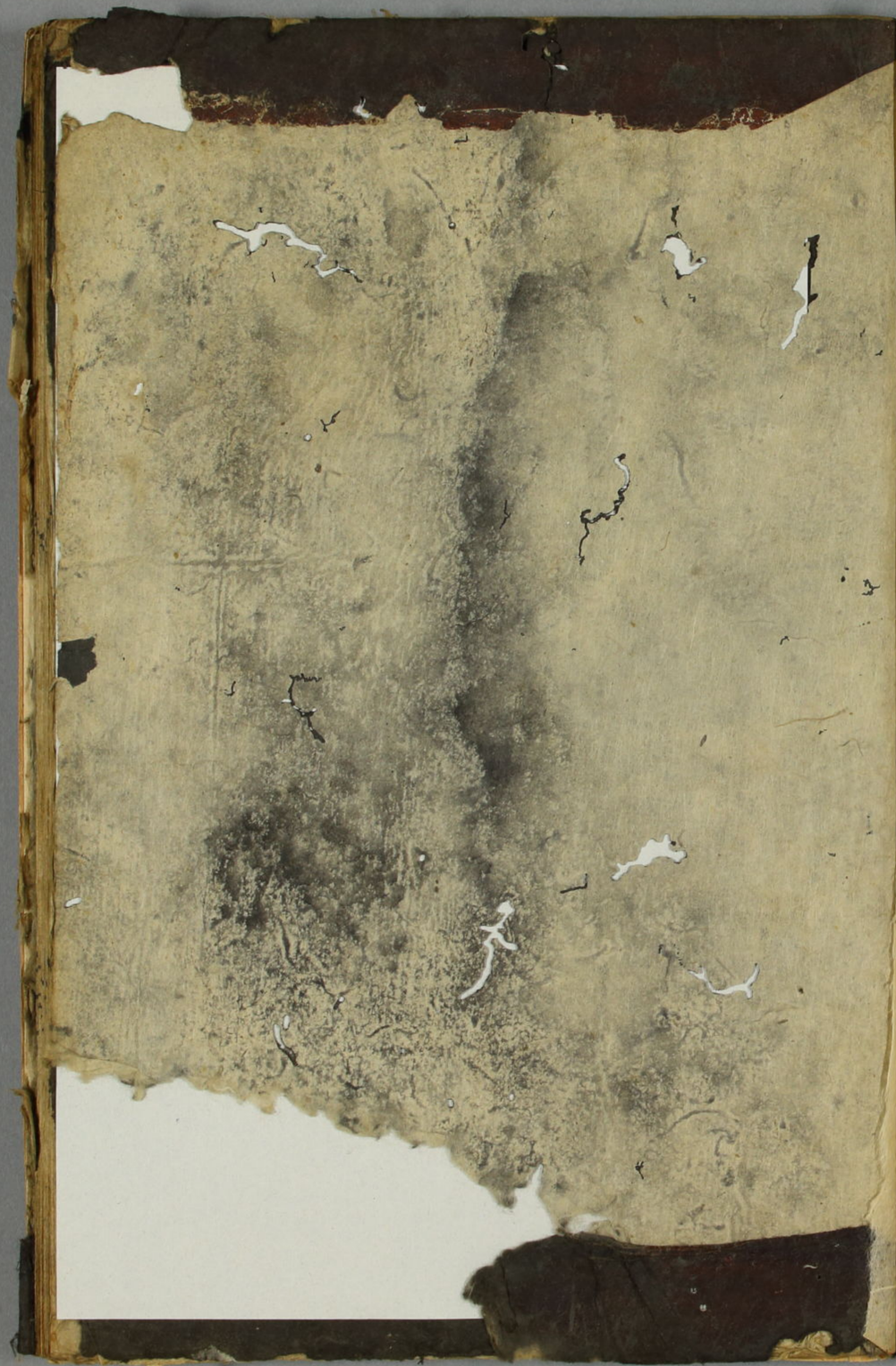
慶湯　みちつる　雨水のたまるし

漬川　いさつる河　敷の河のこそ

ちはく神ふへ

留原　口のちう　大海の事し

浪復　なちつる　浪なちつる



最終一枚脱

天雲　わすらるもうきものとしてはいもの成ゆくさすらう

偶　ものゆくくるしきこと

合豆　はなたちばな　梅の花ゆ咲り

人並　人なみに　人同心の事

年決　ゆくさき　年決月決同事

波の字は二句去へし

張勝　えなしわすれ　花月ゆ咲り

義　ふの字ふ屋

詞林三知抄　坤

2204

2204

宝福寺文庫

詞林三知抄下

一切衆生　さいしゅうしゅさ　多人乃事なり

三界六道　さんかいろくどう　天地人のこと

唯我独尊　ゆいがどくそん　我世中おわんかうえい

弘誓願　ぐせいがん　ちかい

濟倒　さいとう　漂零た書こ

陵跨　りょうこ　約りくつとらる形

早晩　そうばん　何ほどか

屠　と　殺生人あもこ

宝福寺文庫

勵

章

さいたまはせくらなる
さいたまはせくらなる

さいたまはせくらなる
さいたまはせくらなる

ひとりてはくらわくはとさこそはせめと詠り

有端　わさ屋

倡　いさよふ

人の中ゆくゆくし
ものんとする時

みわ浦ゆくいさよふ浪しも詠つる口傳

三輪組　みはしくむ

老人のくまれる姿

鍛冶人　志ゆ屋人

同老人のまこと

針同衣　ものめ屋

縫衣の裏の裏

風　まそへて

なそへて詠れる事

縫衣

とめこう

ものこよりとも

縫り花鑑の裏菊とひもの形よりそこん

廻火屋　かひや

廻る海のやこ

餌屋　かひや

ねかひもの形

蜜屋　屋もも

家人のたまりて云

きそろ屋の信よりまく地こ紅しわる

東雲　おくぬ　わけてこの事し

東海　わけはら　板東の事し

靡　なびく　なびくなびく　猶の字不通

大江山　丹後の遠名　ふるさとと云のこと

山奇八　波こよ　よきへくもあつ

歌　ほのぼのと　海こがこと

長松　ふかい松　神こ房計の松

みハ扇の松と云流る

宣長　はるかに　ふるさと

みはるかにかすみ　ふるさと云りやうにかけ

侍人　称ちを人　心のこかねね

称ちを心と　称ちを人

星徳角　髪角　星のあをもれ　ひさかたのひかり

東方　わけはるか　そ海のくもかと

芝眺　いと海かと

夕云　ゆふされ　ゆふされはと云

秋の月ハ名ふれ　月の猶の事と

はるとてとふら

怪　あやしき　かうんしるし

危　あやうし　大切なる祈し

蠱　わやうす　ものろる祈し

[illegible]　あやしくあること　ものろる祈し

呪　わやうく　いやはるわること

[illegible]　わやうす　[illegible]

[illegible]　ゆしき　[illegible]

七夕ゆ衣ぬきて子へさたゆしとやうん墨流のそて

[illegible]　ゆきけ　雷のうんとすること

宮消　ゆきけ　雷さはりあり

[illegible]　みを　翠簾を書なり

山常法　山つとけ　いたもけなること

月新さくは山つとけと祈り

陽陽　ひくれも　いんうんふること

[illegible]　ひやうと　こうりと振ること

[illegible]　ようう　地とふるねすし

蹴　ようる　ようさの祈みしと

[illegible]　祈なる

朔月　　久方発　　月すさまじく祈る心

信　　志賀の一　　志賀の浦の書

行杵　　志賀の一　　道の一つの書

吉野山去年の志をりの露をたづねて今年の花を見ん

吟　　さくら　　遊山一つの祈

斫　　うゑつ　　洛花書

我せ一かしこうるおいつゝせと詠り

秋　　ひさ方　　月の書

三吉野の月の面の雲じひさるに月の方ふかそうと後年

年頭萩　　年ぞわ一ろとき　わ一と御祈

みなわ一た高のよう一

鶴　　かと　　みさをねとい心

さくよ波ことたちあつ

楊　　みさかき　　ひさ一ぬ書

濃深夜　　しそめつ夜　　とくとあ夜ふか

漆　　そうく　　麻かれぬくるこ

そうく麻や山よへうんと詠り

戦　　そうく　　風よ木の葉の動

古河より峯上紀梨葉戦時しるし

松縁　いさまふ　雲母も波りよし

雲の行ひ人の神波ろ世引神さ

表紙　やうろ　いう母もろ〳〵さし

巣章　さうのく　さかへ約さ

ひ〳〵さうのく時もあるとと涙り

震安　いとやとく　称やすくとさ

時多一数過てる房松ふとやすくあるくもわ〳〵お

慶喬　海ひとと　恵人はさ

て涙人　見ものとかさ人　見も伝われ人をの

南　さうね　褥とも書し

襦　紙の毛ひとふとあやとものる房神さ

紙ひ〳〵海し　面白は書さ

天明は玄神代之品傳何も同字有は泳替三百一玄

玉柏　海のひ〳〵も　うろ〳〵きのいさ

玉柏さは水中の大石の事は玄さ奇り

雞波江の藻より流れ〳〵ふわ〳〵流れてたりと玄さや

柏木は業守の神のやうの事さ

[illegible]

現ゝ拍　このてりかへしも　てりかへのよう似る

とゝふるさまもそるとなこのてうくの義ゝとなる

白みもろこしとうとうちの新しもこと寄りよ

かゝ坂やゝもりくの三ゝかてこ丹てひく丹と袴ちを人ゝ新と

泳り山紀世前紀のやうかま元元こうくさいる

みもとりこあさいかるさへ風丹てあひうやすゝ

踏乃　かゝくく　巻ゝてかこ新くこ

不知　いさ　さてねとこるゝ

[illegible]

疑距　さてゝ　打新まくこ行まよ

上りいつくさゝ

急走　わゝすゝ　かゝゝひゝ新こ

わゝすゝてゝ[illegible]

依君已隙帝女急走こ作り

隨意　ゆゝく　打ゝてゝ

紅葉の錦神のまにくこと泳り

味　ゆゝふ　道ゝに泳ゝふ

愁　ゆふ　この乳あつかりし
付表神　けくりとも　そけ物をこの事と
老遠　とゝるべく　幸くけくること
檻　とゝ　らんかくること

古物より鑒賞白鴨朱檻前遠遠こと

鴛鴦　けぬ　そちくゝること
糸桜　まゝ　月かも乳母とこそ
ゆくゝる神かるゝ
埋木　ゆゝまき　谷のむもれ木

埋水たゝえる泉よりくまこそ水こ

葛かけ音の泉いく秋のゝ紅葉ゝ

野際　のたりさ　ゆのさかひの事こ

是家の山路とゝて鷲つゝさよとゝを鷲つゝ

是川　芦家ともも　越日三代の事陽

ゆ山　ゝくこ　ゝくまてゝ
鳳金　かりの　かりの事こ

とこゝ九国八人のみめワさ鳳の形と教さて

女子のゝくゝと付さすゝこゝさゝ国ゝ集ゝ

かれハかやうれといふそ

雁音　かりかね　かりの聲のこと

一句の前によりてかくへし

朝明　あさけ　中略のこと

朝開　あさびらけ　あさとあくる事

朝食夕食　あさけゆふけ　あの字ハたもしけし

秋食とく　よおく　是もおハさけし

若くもしと云字あらハ二句可去

浜　浜いそ　鳥の翅ともいふこと

沉枝　しつえ　さかりたる枝のこと

末枝　ほつえ　末の葉の事

棘　とけのは　からまる枝のこと

又一説ニ月卿雲客をもいふこと

慇懃　ねむころ　ねんころなること

ねむころに慇懃すへく詠り

悲哉　かなしや　かなしやといふこと

年毎　としなけて　年ハなきかわりたること

日闌　日たけて　日のたかくなること

古今集 月前三年春霧消とゝろみ玉ゝと
てかしこ
細竹石 ちくさ紀石
渡水 さゝ水
漣 ちゝかなと
波や志ゝの浦と云八子細ある
皮笛 かはふえ
尺八笛 さくはちのふえ
源氏ゝさゝもの第和ゝ字ゝ

傍月 わきつき
よそめする事
はの國の雑記に沙石一物名一沙らはわかゝるかせそ
辛鍋 さゝのなべ
玉物 たまさかる
魂霧 あまさかる
魂簧 たまかはら
源氏ゝ玉鬘ゝ
御簡物 みすさ物
紫門 世ゝ字ゝ

九打　はつね　盤打共書し
夜ゐりめれはさ梅のさと山に詠り
末居　こ井ゝ　鷹の本にあるし
紫椴　志そくふ　運に不遍
氷室守　ひむろもり　前氷室人へし
武鴻道　もゝしきのみち　前道のうへし
又ハ日本の歌道　志き嶋共云
和哥　やまとうた　山の字に不遍
頃日　このころ　近来共此字に遍

為明　かのえて　月記に詠り
若く　かのく　同字にも有可去
云む　よしゝ海　調とかめさるし
逆ふ折　さうてう　海人の水中にあわ
家附さそ折て上るし
磯山の記の盤ハ心なき海もはそとかへかくれ
自か雲　志らくも　すらしきぬるし
豊籏雲　とよはた雲　かなよくこのなのて
とくまわつくまつてなると

[illegible]

人の[illegible]

永雲　いのこの丸のてらす

ちとせふるこの[illegible]

[illegible]　年等の心入[illegible]

[illegible]　金[illegible]

我宿の行の[illegible]

[illegible]

と詠り

[illegible]

[illegible]

三瀬川　[illegible]

渡川　[illegible]

送翅　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢
儀
漢史
樵史
天象 山象
山象のうつる所の時に一教なりけいてうこと
皇
王
浪河

ゆあたの尾上に出る
人の字に二有り下に
浦人の事
山人のこと
物の空ひくこと
すてゝ
天子の所事
君大光
天河とも事

夕象

三月廿の後まて波の多く波の音
うつ出るなるへ
野寺院
水面鏡
沖潮
棚曇
長遠
雪れしの空と落てて
雲れしの空と落てて

月出る大内
のうつる所
ひもかる見
みくし
たなくもり
わすれ
雪れしの空と落てて

天象

波

遠の八潮水の御陰をうけて三つ面りつれ

数鳴島　鶏の明るを鳴ハ

舟餞　月の出るもの　月日の出るのすこ

浮世と泳り

為雅卯　秋さらん枕詞

ひ長て寄ハ為雅の歌の夜とやてをる

新元

十三

古酒よ　黄為京酒新元者とも

寄衣　ぬまさるぬ　遠なとと

ぬまのぬまこ衣とこ

厨

勤切人

遠

月為

粗

ハ酒ものこ心計ハ紀寄の浦るよ此事ハ毛のなこ多

清瀧

花美

作盃

撞

作

成集

卯月

梅雨

世を方

世為方

貴道

岩戸柏

月見酒

されそうたかくもわきぬす雨の浦よりきの山嵐ト

歌　やまとむら　心ある力なしとみえし

花見丘　されなそう　花みつつおもてさく

我宿の花見かてらにくる人ハと詠り

野亥鷹　野守之の鏡　色のうやたりし

我家ハ野守之の鏡の人いはわすや世ろかもしれなり

うかるまといふ事にて初てるすること

風祭　いさよう　風とまりのゝ云

源氏の大将年月二日よ波人よ梅ら世話ひまうす

山その花くらし梅ひろよ相卿とりして風とされ

ら世話られハ花のよハひ延らりし事とそれ三百

教と云ふのもりいとき

兵砂地　雨さこら　路よ霜

高砂　たかさこ　山乃地名と

藤説　たひや陳し　たちゆ而事と

猿月垣　ひのかきり　何桜そくむこと

長遠　とを路へ行　行よ不通

向後　ゆくすゑ　行よ不通

天し女　わまとしめ　表人乃ゆゑ

天武乃ゆゑ小吉野の文ゆゑ住給ひし時天人乃人

わまとしめ乃神とまをし奇よし女子をとこ

すれとも男やくこゝろ有り代乃光景

らくと涙せしを例して大内上文乃

乃章姫とゆふ

國栖　くすこ　化相乃人こ

魚のやうに緒とをくひきて天武乃へ来法

神代の事本中むすめ物語とくい天

さと獣ちりこ後ハくくの赤鼻となりし

かなをを例して大内てくゆうかさとゆゆこ

十四松　さかりの松　松千年より十度

乃用ことゆゑ乃乃乃ゆゑ

乃石立　ちなよ立　松ゆく乃立

千金　ちゆとゆ　ゆあの金こ

春賣一刺價千金

海母　さまりゆゆ　緊船も用事こ

素後　のりゆく乃　後母ゆく船ゆ

香船　いかのよ　出船のりて行る漕

家上川のかまいて　稲毋のいかとハわれと　ちりまて知

山川とやして　井とのかけるこりしらと　高こ人の地と

ゆくこと　ゆくこと　いかるこはわれと

稲荷　いかもしろ　風の吹しこたる神こ

安山子　こし　人新と　こうこと

寄船思ハと　こうこ　地子　流ぬこ　ぬこ　わろ

鶴村寄　わろのむしろ　小ろ　ひこと

曉の雲井　もわ　毛　寄　一節　行　わろのむしろ

偷盗島　ぬ　こ　行る　鷹と見て　ちょうこ

鶏寄船　こひ　こひ　こひ　こひて　花ろ

鶏世寄　こひ　こひ　こひ　ひらと　ちょうこ

沿籠指　ろ　こ　こ　こ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ

鶏の尾　ろ　有　沿　こ　ろ　こ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ

こ　こ　ろ　ろ　沿　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ

雛小枝　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ

小夜

さうてう　作者未詳　詠り

濱雨

そか家毎　たてしひしかう浦と

情

なりて　たてつむこ

玉鉾小屋

さたかの　あれる家と

空小屋

さたかや　ぬるやの事と

古里の荒乃門さうてと　詠り　住吉の

一

松の根毎　さたかてとむ　是六あのこう事

て　巻ふかの秋と

濱廟

こ廟ひさう　浦しうい　秋と

白波のうたかはは　詠り

辞苔

岩そうの　祖してうと　詠

拭光

たけの　寄のかうさんと

伝島

こ井の事　出伝隠島の事　集

通集

よれてしめさせ　事と

海やる　明廻しかるこの

そうなれてそ　こうとすと

雲の上はかはやの　花と　樹のもやまて　入海

百千反鳴

さうか　明るかはく　鳴と

百千島　すちうるま　[illegible]

[illegible]と云流ハんまめ[illegible]と云[illegible]法ふ[illegible]云こ

百千島とも[illegible]

嗔子島　[illegible]　小名[illegible]儀[illegible]云[illegible]

流わるこ[illegible]受所[illegible]

鳴　[illegible]　小島の鳴[illegible]

龍車　[illegible]　天子の小車[illegible]

龍とハ龍の車と云こ

亡熊羆　なぐ[illegible]　才能の車[illegible]熊

亡熊羆の牙油と云事[illegible]も大図ハ

[illegible]貫[illegible]事

三猩々猩　[illegible]　三猩々猩の事

源氏[illegible]　[illegible]

船長　[illegible]

門長　[illegible]

澤長　[illegible]

澤長莫鼈時変[illegible]

著鷹　[illegible]

[illegible]ろひ続てこらむ事と

人を道　人やるとめやる　人やるとこと云事と

[illegible]

[illegible]人の道かなしてゆる[illegible]と詠り

下紐　[illegible]ひも　[illegible]命と詠り

和和菊　[illegible]　[illegible]貴と

蔦　尊　[illegible]　[illegible]

[illegible]

古語　尊葉之義也鼻之義[illegible]

蓴田鶴　わ[illegible]　芦原[illegible]

芦鴨　[illegible]かも　同人

夕附日　[illegible]　[illegible]

夕月和　[illegible]　夕月と

朝附日　わさ[illegible]ひ　わさ日の事と

天下日　わ[illegible]日　月西[illegible]

雛鳥　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]の浦うと[illegible]詠り

操神　はるかなる神　心数えてらはいろか
ふ飛ともゆるさるる紅葉の久はい黄こ

離　なるる　海の色のあら合せ

芦屋の離と泳り離せこ

瀬戸　せせ　色しなの打合せこ

わしの瀬戸もしわ宮のせとた泳り

遠浦　とおくこ　とくこ見ゆる浦こ

明石のとなたわつ

遠離　なやらふ　深れよ梅枝そ

家門の名戸くひらふ色深れ浮

離といふこ

艤　ゆるよそひ　船ならふ

舟催　ふなりよひ　舟出んとする

舟嶼　舟しくこ　ふこ

山城のこつ聖の里と縁と書くこ家流こ舟こうた

湊門　みなとい門　山門の海と入せこ

宗石　こつ門くいす　波打こはの石

岩の浪よ石こ宗石ならく石の岩こ神の上ま

白波　さゝなみ　なと人のゝ
みゝ緑の林と云もなを人のゝ
漂　たゞよふ　水のゆゝしく
久々船　ゆたて舟　海と十丁三
汀漫　かゝくま　岸の水ようゝ
滝江　さひえ　水のふちゝ
さひえの月のかけのゆゝしくゝ
雨映　ゆゝさ　雨風
花のゆゝさゝもゝ

網代　あみしろ　うを入れ
級照　しなてる　山のかゝゝの
餌　えさ　ゝゝ
知かもかゝ飼ふ　ゝゝむ鵜のゝと泳り　口行入ゝ
のゝ上ゝ漁ゝ
潮海　うしのゝ　北海のゝ
宮殿　うゝ宮　ゝゝ宮ゝ
宝員　うゝ宝　員のゝ

高瀬舟　たかせ舟　ちいさき舟也とそ
たかせとはちいさき川舟を云也
大舟舩　たかき舟　持たる船の事也
難波の芦の月のおかしき舟路にて見ゆる夜の曙
夜よりあけと云字ハ可嫌同字五句也
頻波　しきなみと　たゝ海の波也
河添白　川風に添　波のあはら也
水泡　ミなわと　水のあわ也
雨滴　あまそゝき　うち滴也

澪　みを　水尾也
水底　ミなそこ　水のそこ也
鱸へ　と海所　入江なとの事也
曙　あけほの　暁とも云也
緑竹　いとたけ　ことふえの事也
物音　ものゝね　くわんけんの事也
玉鬘　たまのかつら　あるへき名也
玉の御たと云ハしきの名たる也
御服　ミけし　天子のめし也

琴御
待
蒐

ことひく
きのうぐ
夜のうち

引の度ごとに
敗れのうと
流そのうと

かつとと〻 空空雲よりかとうへ
擊

きくを
ひゝ光くこと

灯のさうんとて

力へ

力へ

神みもいふ神と

あれこと男入る